

第3回安曇野市環境審議会 会議概要

1	会議名	第3回安曇野市環境審議会
2	日時	令和4年3月18日(金)午後1時30分から午後4時40分まで
3	会場	本庁舎 4階 大会議室
4	出席者	環境審議会 藤澤昇 会長、樋口嘉一 委員、堀井三郎 委員 横田耕太郎 委員、大澤昇治 委員、中沢清一 委員、畑中健一郎 委員 山崎晃 委員、岡江正 委員、原弥生 委員
5	市側出席者	環境課 山口課長、廃棄物対策課 廃棄物対策担当 豊田係長、 環境課 環境保全係 百瀬係長、環境政策係 丸山係長、高山主事、古屋主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0名
8	会議概要作成年月日	令和4年3月31日

協 議 事 項 等

【進行表】

- 開会
- 会長挨拶
- 報告事項
 - (1) 環境基本計画 令和3年度 年次報告書について【資料1-1, 1-2】
 - (3) 環境基本計画 令和4年度 実施計画書について【資料2】
- その他
 - ・令和3年度 安曇野環境市民ネットワーク 活動アンケート結果【資料3】
- 閉会

【議事】

報告事項(1) 環境基本計画 令和3年度 年次報告書について
<環境課から説明>

《各ワーキンググループでの審議》

<評価・意見>

【グループA】

(No. 1)

- ・目標①について、次年度でカブトムシなどの目玉となる昆虫が見られるようにとある。カブトムシなどは参加者からは好評であると思うが、No. 1の目標はシンボル種やレッドリスト種などの保護活動を推進することである。カブトムシなどは導入としてはよいと思うが、計画が目標から逸れないように注意すべきである。
- ・目標③について、クララの苗配布について、目標として求めているが当日の来場者数なども分かるとよい。

(No. 2)

- ・目標①について、リポーター以外で報告いただいた方に、リポーターについて積極的に案内してみてもどうか。

- ・リポーター以外の方からの報告も実績として残すことができればよいと思う。
- ・特定外来生物は法的な規制（移動、運搬など）があるため、単純に積極的な駆除を促してもなかなか捗らない場合がある。法的に問題のない駆除の手法などを周知するとよいと思われる。加えて、リポーター登録者で報告がない方にも協力の呼びかけを積極的に行う必要がある。

- ・目標③について、計画の内容を幅広くした方がよいと思う。

(No. 13)

- ・目標②について、薪は毎年同じところから供給されるわけではない。そのため、毎年の安定的な供給先の確保はいずれにしる必要となる。需要を促進することは難しいかもしれないが、CO₂の削減に限らず森林整備の問題も含んでいるため、安定した供給先の確保は必要と考える。

- ・供給量・需要量の減った理由がその都度違うと思う。コロナが影響しているのであれば現状の目標を継続でよいと思う。

- ・もし増やすのであれば、しゃくなげの湯以外に供給先を開拓するという手もあると思う。

(No. 14)

- ・目標①～②について、実際にどれくらいの安曇野材が使われたのか。イベント的に実施したとの評価はこれでよいが、より具体的な情報も欲しい。

(No. 15)

- ・目標①～②について、No. 13 から目標に対しての結果が 300%などかなり大きい数値になっているものがある。もう少し思い切った数値目標を設けてもよいのではないか。また、目標②の実施結果で「さとぷろ。学校」の結果が 72%になってしまっているが、実際に「さとぷろ。学校」に関わった際に少人数の方が各々の学習を密に進めることができたという点もある。

- ・目標①の 2. Do（実行）の 7 回は何を加算して 7 回なのかが分からない。また、目標②の 43 人も何を加算したものか分からない。「さとぷろ。学校」も 6 回、講、期と表現が分かれている。

- ・表現を統一してほしいと思う。

(No. 16)

- ・目標①～③について、松枯損木とあるが、松枯れで枯れた松のことでよいか。4. Action（改善）には処理本数 1,000 本との記載がある。

- ・伐倒くん蒸処理されているということは松枯れの木であるということだと思うが、表現が分かりにくい部分がある。

- ・内容的には環境に配慮して実施し、松枯れ対策の効果も出ていると思われるが、表現をもう少し分かりやすくしてもらいたい。

(No. 21)

- ・目標①について、安曇野市の現状は知らないが、県では農作物被害金額を定めて対策を続けたところ、現時点では被害金額がピーク時の半分ほどにまで減少している。そこから感じたが、高い被害金額を目標にすることは現実的かどうか悩ましい。低い被害金額でもよいと思う。参考意見としてほしい。

- ・目標②について、実施中で評価欄が書けないにしる、2. Do（実行）に現時点の捕獲頭

数を記入してもよいと思う。また、計画数計 170 頭とあるように数字まで掲げているため、方法も記載してよいと思う。

・170 頭という目標になっているが、何が何でもこの頭数を捕まえなければならないわけではない。全体の個体数調整が大切であると思うため、その点が反映された目標に変えるべきだと思う。

(No. 25)

・特になし

(No. 26)

・目標①について、新しい周知方法として、実際に補助金を使って設置された雨水貯留槽の利用状況を調べて、PRの具材にして発信していけば効果的だと思う。

・No. 2（外来生物の分布状況を把握し、その悪影響に関する普及啓発を実施する）のリーターも同じやり方でPRしていけると思う。

【グループ B】

(No. 3)

・臭気対策に国や県の補助金活用ができないか検討も必要だと思う。

・関係者が動かざるを得ない仕組みの構築が必要だと思う。

・市が財政支援も含め事業者と一体となって対策を進めてほしい。

・安曇野への移住を進めるためには環境の改善は重要である。

(No. 4)

・空家の解体にこだわらず、中古物件の活用も促進してほしい。

・空家対策を考えている人で、補助金事業をしっかりと把握していないため事業を受けるタイミングを逸している人もいるので、そのことについても事業の実績として検証してほしい。

・国の動向も踏まえ、対応してほしい。

・所有者への対応は難しく、法規制など課題も多いが、安曇野への移住者が利用しやすい仕組みづくりを検討してほしい。

(No. 17)

・認定農業者数は増加しているが、中山間地では課題が多いので、地域の実状も考慮した取組みをしてほしい。

・農業のメリットを発信し、魅力を感じてもらえるような対策が必要だと思う。

・地元の米（粉）の消費が拡大すれば、価格も安定すると思うので、地産地消の取組みを推進してほしい。

・移住者からの農業に関する相談が多いので、法規制のハードルは高いが、遊休農地を提供できる体制づくり、農地バンクの充実などを図ってほしい。

・新規就農者に対する市の窓口をつくり、研修などの支援体制づくりも必要だと思う。

(No. 18)

・管理されていない荒廃農地の周辺で困っている人も多いので、対応策として広報での呼びかけなど市で対応を検討してほしい。

・荒廃農地の取得希望者もいると思うので、法規制のハードルは高いが、荒廃農地の売買の仕組みについて検討してほしい。

・空家に付随した農地の有効活用の検討をしてほしい。

(No. 19)

・環境に配慮した取組みを推進してほしい。

(No. 20)

・SDGsの視点も重視して取組みをしてほしい。

・米粉の利用促進など具体的な活動も計画で検討してほしい。

・学校の取組みは進んでいるので、市も協力をして、お互いのニーズを探りながら、取組みをしてほしい。

・小学校へ入学する前の低年齢の段階から教育をしてもよいのではないか。

(No. 22)

・管理などは大変ではあるが、子ども達に対しても良い影響があるので、取組みを推進してほしい。

・昔ながらの堰普請などは地域の絆が深まるので、事業の中で今後も継続していけるようにしてもらいたい。

・長野県内の先行事例を参考にして、安曇野ならではの小水力事業の促進につながる取組みをしてほしい。

(No. 23)

・植樹や花壇づくりは、地域コミュニケーション形成にとって意味があるので、市も積極的に支援してほしい。

・緑化は重要であるが、交通安全を十分に配慮したうえでの取組みとしなければいけない。

・安曇野ならではの花に関係した毎年恒例となるようなイベントを立ち上げてほしい。

(No. 24)

・引き続き取組みを推進してほしい。

【グループC】

(No. 5)

・商工会に補助金の内容をより把握していただき、幅広く成果がでるものにしてほしい。

・補助金事業を引き続き継続してほしい。

(No. 6)

・ごみ量の増減について、月別などのより詳細なデータがほしい。どの時期に増減したかわかることで、要因を推測しやすくなる。今後、ごみ量の増加対策をするために、集計・報告方法の変更を検討してほしい。

・コロナ禍、また、令和4年に解体工事におけるアスベスト法が改正されることに伴って、駆け込みで建物解体件数が増えている。これらの要因によってもごみの増減が変わってくるため、今後の市のごみの増減を予測するうえでデータの詳細化は必要だと思う。

(No. 7)

・市ホームページで段ボール堆肥の作り方や堆肥の使い方をまとめて掲載すると分かりやすい。暖かい地域と寒い地域で堆肥の作り方も変わってくるので、安曇野市の気候に合わせた独自の段ボール堆肥の作り方を模索するとよいのではないか。

(No. 8)

・行政の立場として、市有施設の省エネと住民サービスとのバランスをとりながら省エネ活動を継続して行ってほしい。

・目標③の4.Action(改善)、次年度への展望として「県の方針をふまえて、実施を検討していく。」との記載があるが、「県の予約が再開したら実施する」という記載のほうが適切ではないか。

(No. 9)

・2025年の住宅を含めた省エネ基準への適合義務化、カーボンニュートラル、世界の地球温暖化対策への現状、今後地球温暖化が進んだ先に何が起こるのかなど、市民が知らない情報を集めて、今から行動してもらえるように広報活動をしてほしい。

・長野県地球温暖化防止活動推進員有志で作成している「省エネガイドブック」もあるので参考にしてほしい。

(No. 10)

・住民サービスを維持しながら省エネを実施する方法のひとつとして、人感センサー付きの照明機器や水道の導入も考えられる。今後導入を検討してほしい。小中学校の壁や窓の断熱改修を行ってほしい。また、太陽光発電システム設置は省エネも含めて危機管理のうえでも必要なため、設置を検討してほしい。

(No. 11)

・継続した取り組み、広報活動をお願いしたい。

・緑のカーテン促進の次段階として、松枯れの問題も踏まえ、木を植える活動を広げてほしい。

(No. 12)

・太陽光発電システム設置への補助金に合わせて、蓄電池への補助金も検討してほしい。

・2025年に住宅を含めた省エネ基準への適合義務化が始まる。ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)が標準になり、新築の住宅には太陽光発電システムを設置せざるを得ない状況になる。こういった情勢や市内の年間新築件数を踏まえて、予算の拡大や蓄電池への補助を検討してほしい。

(No. 27)

・デマンド交通「あづみん」は長年取り組んでいる事業であるため、単に利便性を高めるだけでなく、色々な手段や他市の実証実験を参考に新しい取り組みをしてほしい。5年、10年先を見据えて、安曇野市にはどういうデマンド交通が適しているのかを模索してほしい。

・少子高齢化がさらに進んだときのことを見込んで、新しいシステムの導入を検討してほしい。

報告事項(2) 環境基本計画 令和4年度 実施計画書について

<環境課から説明>

その他

・令和3年度 安曇野環境市民ネットワーク 活動アンケート結果について

<環境課から説明>

(午後4時40分 議事終了 閉会)

【今後の予定】

・ 4月22日（金）午後1時30分から 令和4年度 第1回環境審議会